



マンスリータイムズ みはま 9月号①

一学部が本校への登校を再開しました!



視線の先には…



小学部の友だちと校長先生がパネルを持って出迎えてくれました! パネルには「一学部さん 元気ですか?」と書かれています!

隣接する和歌山病院に入院している一学部の児童生徒は、新型コロナウイルスの感染に伴い、令和2年3月から本校へ登校することができない状態が続いていました。その間は、和歌山病院の病室やダイニング、また和歌山病院敷地内の「はまかぜ教室」で学習を続けてきましたが、9月から約3年半ぶりに本校への登校を再開しました。一学部のみんなの登校時には、二学部の仲間や先生が出迎え玄関先に明るい笑い声が響きます。

まだ1階の教室での学習が中心で、二学部の児童生徒との直接の関わりには制限がありますが、たくさんのことにチャレンジしてほしいと願っています。

一学部の教室は、1階の保健室前です。夏休みに、本校の教員業務支援員さんが一学部の教室の入り口等に掲示物を貼り、みんなの登校に向けた準備をしてくれていました。ありがとうございます!



「聞こえづらいつってどんなこと?」 高等部「生活と福祉」の学習より

9月8日(金)、二学部高等部3年生学校設定科目「生活と福祉」の授業に和歌山ろう学校 内門祐先生をゲストティーチャーとして迎え、「聴覚障害について」実践を交えた講義を受けました。

私たちはどうやって「音」を聞くのか、どういうことで聞こえづらくなるのか等について学習しました。実際にイヤマフや補聴器をつけてみて「音」を聞き比べたり、聞こえづらい「音」に文字を合わせると理解がしやすい、ということなどを体感し、「聞きづらい・聞こえない」ということはこういうことだったのかと実感した生徒もいました。

「聴覚障害のある人の日常生活」について学んだ生徒たちは、聴覚障害の人に初めて出会ったときや、困っているような場面でどうしたらよいかということをお話しました。「SNSを駆使し、画面上のやりとりだけで成立させる。」「失礼にならないように接触しすぎず、対面で手伝いたいな。」などの意見が出ました。今後、授業でもそういった場面を想定し、みんなで考えていくことになりました。



「生活と福祉」では1月には和歌山盲学校の先生を迎え、視覚障害についても学ぶ予定です!

みはま”be yourself”プロジェクト

マンスリーみはま7月号②でもお知らせした「みはま”be yourself”プロジェクト」の取組の1つとして、美浜町中央公民館にご協力いただき、公民館2階に児童生徒の作品を展示できるスペースを作っていただきました。現在、高等部書道選択生の作品を展示中です。

